軽種馬生産技術総合研修センター マンスリーレポート4

軽種馬生産技術総合研修センター
Center for Equine Breeding Technology

愛馬のためのフットケア・テクニック

トップアスリートである競走馬は，幼駒や育成時代でも，適切な蹄管理を通じて，蹄の健全性を維持し，見た目にも整った蹄を維持することが大切です。まさに正しい護蹄管理は，その将来の運動能力を左右するといっても過言ではありません。そのため，幼駒時代から専門の装蹄師による定期的な削蹄を励行し，機能的な蹄を作ることが求められます。同時にまた，ウマの管理者自らがフットケアの基本知識を知り，日常の適切なフットケア技術を身につけて，異常の早期発見に努め，装蹄師と協力，または獣医師を交えて適切に対処することによって，はじめて成果をあげることができるのです。

そこで，日本軽種馬協会の研修センターが核となり，平成17年から始まった「軽種馬経営高度化指導研修事業・生産育成技術研修」では，一般技術指導者養成研修事業の一部として，一般生産育成者に対する護蹄研修を実施しております。「あなたにもできる！愛馬のためのフットケア・テクニック」と題して参加を呼びかけた本研修は，日本装蹄師会に事業委託して，ウマの管理者を対象に，平成20年２月から22年３月までに，日高地区（静内２回，浦河２回），胆振２回，東北（八戸）１回の計７回が開催されました。

八戸研修での講義

一般生産育成者を対象とした護蹄研修会は，これまでにも講演を主体に折々開催されてきましたが，今回の研修では，フットケアについての基本知識に関する講演に加え，新たな試みとして，午後は参加者が自ら実馬の蹄を削切する実技研修を実施しております。

午前中の講義では，スライドを使って，蹄の構造や機能，蟻洞や白帯（線）裂，蹄葉炎などの蹄病，あるいはウマの肢蹄管理のあり方や立ち方，肢曲がりやその矯正法について，その最新情報を学びました。午後からの実技研修では，外に出て，実際のウマを使い，その立ち方や歩様の見方を学び，その後，講師である地元のベテラン装蹄師さんの指導の下で，肢の保定方法やヤスリを用いた日常の基本的な蹄管理のテクニックを習得しました。最後は，参加者と講師陣の質疑応答。日頃の疑問や考え方を互いに披露し，熱い議論が交わされました。

浦河研修での実技

商品である仔馬の本格的な削蹄は専門家に任せるべきですが，ウマの管理者のみなさんも，繁殖牝馬の蹄を含めて，日頃からこまめな端蹄回し（蹄の周囲が欠けないようにヤスリがけをすること）程度の護蹄管理は心がけたいところです。この研修を通して学んだ「あなたにもできるフットケア・テクニック」を活用し，明日の名馬を育み，送り出して欲しいと思います。

お問い合わせ

〒056-0144　新ひだか町静内田原517

軽種馬生産技術総合研修センター

TEL 0146-46-8008
FAX 0146-46-8009
✉tecenter@jbba.jp